

また、現在の当院の訪問診療をするにあたって、大きな影響をうけた制度があります。東京都の高齢者精神医療相談班です。高齢者精神医療相談班は、東京都内に3カ所ある精神保健センターに設置されている組織で、精神科医と保健師から構成されています。地域包括支援センター、民生委員、近隣住民の方で認知症のためと思われる住民の問題行動で困っている方がいる場合、地域の保健センターに相談すると、精神保健担当の保健師の訪問後、必要があれば、高齢者精神医療相談班に訪問を依頼し、精神科医と保健師が同行訪問することになります。現場で精神科医が診察し、専門病棟入院を含めた処遇の相談をすることになります。このシステムでは、精神科医が訪問して、現場で診察をするので、的確な処遇相談をすることが出来ます。世田谷区にある中部精神保健センターの高齢者精神医療相談班の訪問実績は平成17年度に年間約80件、うち入院は47件（精神科専門病棟への入院は45件）ありました。

入院までの手続き

専門病棟に入院が必要な方で、本人の拒否が強く受診が困難な場合は、保健所や区市町村の相談窓口にご相談ください。
相談窓口からの依頼で、高齢者精神医療相談班の専門医が訪問して診察します。対応・処遇について相談に応じ、治療が必要と診断された方については入院を調整致します。



高齢者精神医療相談班

認知症のためと思われる問題行動で、困っている方

保健所・区市町村高齢者相談窓口にご相談

保健所・区市町村窓口から高齢者精神医療相談班に訪問依頼

担当者と専門医が同行訪問して診察



家族・関係者と処遇相談

(入院相談)

入院

在宅・施設入所
(専門外来・往診・
介護サービスなど)

訪問診療システムを運営する場合、ぜひこの高齢者精神医療相談班の機能を持たせたいと思っていました。この場合、費用は医療保険が適用できません。

2. 海上寮療養所にて

海上寮療養所に転職後、平成21年4月に物忘れ外来を開設しました。しかし、予想に反して、患者さんは訪れず、新患数は月に1-2名の状態が続きました。いろいろ原因を調べた結果、海上寮の名前にスティグマがあることがわかりました。

海上寮療養所は、昭和6年に結核療養所として開設され、その後昭和30年代に精神科病院として生まれ変わりました。そのため、高齢者の方にとっては、「海上寮＝肺病の病院」であり、また、若い方にとっては「海上寮＝精神科病院」で、いずれにせよ、いったが最後、まともにかえってこれないところというイメージだったのです。

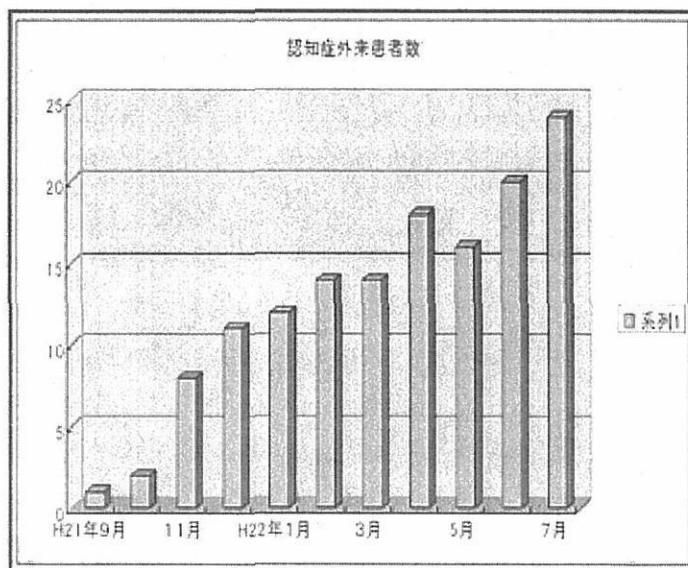
結核療養所時代は、患者さんは他の地域から訪れており、精神科病院になってからも入院患者さんの多くは東京から来た人で、外来患者はほとんどなく、地域社会から遊離した医療を行っていたことは確かです。

こういったイメージをかえようと、平成21年11月から認知症に対する精神科訪問診療を開始することにしました。

介護保険導入後、高齢の認知症患者さんに関しては、ケアマネジメントシステムがうまく稼働しています。そのため、当院の訪問診療システムも、地域のケアマネの連絡会、ネットワーク会議などを利用して精力的に宣伝しました。その甲斐もあって、物忘れ外来の新患数は順調に伸びています。

物忘れ外来 新患数

| 月 | 患者数 |
|--------|-----|
| H21 9月 | 1人 |
| 10月 | 2人 |
| 11月 | 8人 |
| 12月 | 11人 |
| H22 1月 | 12人 |
| 2月 | 14人 |
| 3月 | 14人 |
| 4月 | 18人 |
| 5月 | 16人 |
| 6月 | 20人 |
| 7月 | 24人 |



認知症の精神科外来診療のポイントは2つあります。

BPSD の早期発見、早期治療と精神科薬物療法の副作用の早期発見と早期対応です。

BPSD もこじらせてしまうと治療が困難になるだけでなく、完全な回復が困難になります。また、高齢者では身体的予備能が低下し、若い方に比較して薬物療法の副作用が出やすい状況です。認知症では脳に神経細胞の脱落という器質性の障害を負っているため、精神科薬の副作用が出やすくなっています。若い方の精神症状の治療では、若干過鎮静気味にした方が、治療がうまくいくことがあり、副作用も可逆的なことが多いです。しかし、高齢者の場合、副作用が不可逆的になることも多く、精神科薬物療法では、「効果を出す」ことよりも「副作用を出さない」ことのほうが重要になります。副作用が出た場合にも、早めに対応することで改善する可能性が高くなるため、早めの対応が重要になります。

精神科薬の副作用を早めに教えていただくため、ご家族には私の個人の携帯電話番号をお教えしています。このことにより、いままでだれにも相談できず、孤立して困っていたご家族が、いつでも相談できる相手が出来たということで安心し、余裕が出来、介護者のこころの余裕で認知症の方の精神症状が改善するという大きな副次的な効果がありました。